

11/6 列王記第二 19 章 8-20 節「主よ、どうか今、救って下さい」

小池 宏明 牧師

イスラエルは、ソロモン王のあと、南北に分裂した。それから時代は下り、北王国が滅ぼされた頃の、南王国ユダの王ヒゼキヤに注目する。彼は、主を畏れながら生きる敬虔な信仰者だった。

*ヒゼキヤ王の恐れと祈り

ところが、ヒゼキヤ王は、隣の北王国がアッシリア帝国によって滅ぼされた現実を見て、悲しみと共に恐怖を抱いていた。彼は、アッシリアの要求に恐怖して慌ててしまい、神殿や王宮の財宝を渡してしまった。しかし、アッシリアはますますつけ上がり、ついには南王国の首都エルサレムを包囲した。

アッシリアの指揮官のラブ・シャケは、エルサレムの住民の心をくじいて、戦う気力を失わせ、降伏を迫ってきた。「いったいお前たちは誰に拠り頼んでいるのか。主が私にこの国に攻め上って滅ぼせと言われたのだ。」追い打ちをかけるように、アッシリアの王セナケリブからヒゼキヤ王の元に手紙が届いた。「主に頼るな、頼っても無駄だ、他の国々もそれぞれの神々に頼ったがアッシリアがすべて滅ぼしてきた歴史を知っているだろう！」などと記されていた。今度は、ヒゼキヤ王は慌てることなく、主の御前に出て、すべての不安や恐れ、悩みを打ち明けて祈り求めた。「主よ、どうか今、救ってください。」自分の知恵や力を頼みとせず、主なる神様に拠り頼むことを思い起こしたのだ。

*生きておられる主に呼び求めて

この後、エルサレムを包囲しているアッシリア軍がみな死体になった。主の御使いがアッシリア軍を滅ぼしたのだ。私たちの主なる神様は、死んでしまった過去の偉人ではない。今、まさに、私たちの祈りを聞いておられ、御手を動かし、生きて、働いておられる真実な神様なのだ。

私たちにも、時に「主なる神様に祈っても何も変わらないではないか！」「礼拝をささげるよりも、もっと他に大切なことがあるのではないか！」という誘惑の声が聞こえて来るかもしれない。

そんな誘惑に負けずに、主の御ことばを無視して滅んで行くことがないように、先に滅んだ北王国を教訓にしよう。また、私たちが八方塞がりのような困難の中に置かれた時には、一時的に敵の言いなりになっても、思い直して主なる神様に信頼して呼び求めたヒゼキヤ王の姿を思い起こそう。「苦難の日に私はあなたを呼び求めます。あなたが私に答えてくださるからです。」詩篇 86 篇 7 節